

# 令和5年度中国・四国地区国立大学法人等技術職員研修参加報告

フィールド科学系部門生物生産技術班 脇 良平

## 1. はじめに（目的等）

中国・四国地区国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構の技術職員相当の職員にある者に対して、その業務遂行に必要な基本的、一般的知識及び新たな専門知識、技術等を習得し職員としての資質向上を図るため本研修に参加した。

## 2. 期間・場所

期間：令和5年8月30日～9月1日

場所：香川大学幸町キャンパス オリーブスクエア2階 多目的ホール

香川大学附属農場

さぬきワイナリー

## 3. 参加者等

国立大学法人・高等専学校の職員 37名

## 4. 研修内容

9月1日

講義Ⅰ『地域が生き残るためのアウトリーチ』

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構副機構長特任教授 長谷川 修一

講義Ⅱ『2050年のモビリティ社会に必要なもの』

香川大学大学院数学センター センター長 特任教授 佛圓 哲郎

情報交換会

9月2日

各専門分野に分かれて研修

農学系分野 講義：香川大学農学部附属農場 見学：さぬきワイナリー工場施設見学

9月3日

機関代表者発表 香川高専

香川大学教育学部教授(バリアフリー室長) 坂井 聡

## 5. まとめと感想

今回の技術職員研修会では、私は農学分野に参加した。専門講義では香川大学で実施している水稻の有機資材(米ぬかやナタネ粕)による除草方法や、暑さに負けないブドウ品種作りの紹介があった。香川大学で収穫されたR-1(ワイン用ブドウ)を使用したワインを作っているさぬきワイナリーの施設工場見学もあった。その後の附属農場の見学では、養豚、果樹、花卉類、蔬菜類、水稻、施設内の管理や作業用機械の説明、収穫物の販売会等の説明を受けた。地域との繋がりが

強く、地産地消を実践しているように感じた。

全体講義では、講義Ⅲ「配慮の必要な学生との関わり方」がとても興味深かった。発達障害とはどんなものか、香川大学ではどのように対処しているか紹介がありとても分かりやすかった。実際に苦慮している他大学の職員からも質問が多数あった。

今回は畜産分野の講義等はなかったが、他大学の取り組みや問題等を意見交換できとても有意義であった。